

球磨川流域の文化財学ぼう

と分析した。

石原学芸員は、大門觀音堂にある県指定重要文化財で、軒下につるし

7月の豪雨後に、八代市坂本町の住民や建築の専門家などが参加してつ

くった「みんなで残そう、球磨川流域文化遺産プロジェクト実行委員会」は

4日、同町の旧藤本小で初めての講演会を開いた。

実行委員長の熊本高専の森山学教授(48)と八代市立博物館未来の森ミュ



八代市坂本町 専門家交え講演会

ージアムの石原浩学芸員(55)が、同町の藤本・大門地区と中津道地区的寺社や住宅を含む建造物について、住民ら約50人に説明した。

森山教授は、神社の正

面が球磨川に向いていることから、人々の川に対する畏敬の念が読み取れることを紹介。床下に大きな部材を組む古い民家が多いことも挙げ、「水害に耐えるように床を強く造ったのではないか」

プロジェクト代表の藤崎昭子さん(72)は「藤本地区は「地域の貴重な宝について知ることができた。みんなで大事にして地域が寂れないよう頑張っていきたい」と話した。(元村彩)

2020

熊本豪雨

八代市坂本町の神社や建物の特徴を話す熊本高専の森山学教授(同市)